

# TSUDOI

## スタンダードプラン 週次レポート

TSUDOIはブロックチェーンと仮想通貨に特化した情報配信サービスです。

### 本レポートコンテンツ

#### ◆TOP銘柄分析ガイド

今週の急上昇銘柄分析、上昇理由と将来予測







#### ◆狙い目：中堅銘柄発掘ガイド

世界トレンド銘柄の分析

#### ◆大穴：新規銘柄発掘ガイド

CMC新規リスト銘柄分析

### ◆調査銘柄 早見表

TOP	 XRP	 MANTRA	 Sonic
中堅	 XDC Network	 IP	 Story
新規			

このレポートはTSUDOIの有料サービス、スタンダードプランの加入者専用の情報です。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。

レポートの読み方については、一覧に含まれる「[必見！成功へ導く3つの仮想通貨投資術](#)」をご覧ください。



とは

TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。




有料  
レポート

# 週次トークン価格高騰 TOP銘柄

## トップ銘柄 分析ガイド 2/21

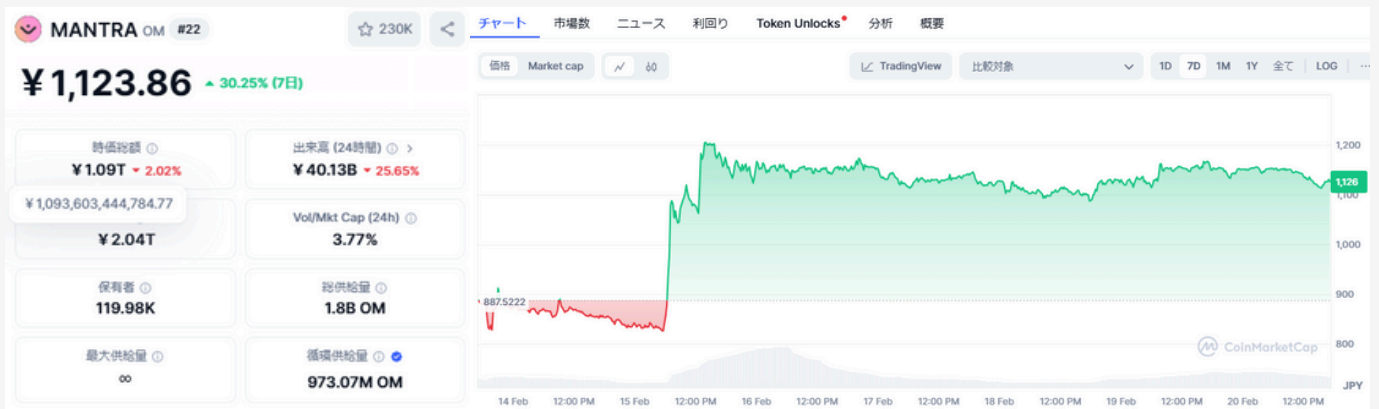
本分析ガイドは、Coinmarketcap（CMC）サイトにて、7日間を通してトークン価格が最も高騰もしくは下落したTOP銘柄を調査し情報を提供するものですが、今週は、中堅銘柄同様、検索トレンドを中心に話題になっている銘柄を週次でまとめて分析となっています。この分析から市場で何が起こったのかどの銘柄が注目されているのかを把握することができます。

CMC Rank	プロジェクト	カテゴリ	時価総額	トークン価格	市場規模 ベンチマーク 比較	上昇率 7days
#3	 <b>XRP</b>	Payment	¥23,370,327,890,864	¥409.50	—	▲9.9%
#22	 <b>MANTRA</b>	RWA	¥1,093,603,444,784	¥1,123.86	1.59倍 (LINK比)	▲30.25%
#48	 <b>Sonic</b>	platform	¥315,439,441,275	¥109.52	39.86倍 (SOL比)	▲35.92%

## TOP銘柄チャート

上記画像は、Coinmarketcap（CMC）で記載されている7日間の価格推移を表示したチャートとなります。基軸通貨であるBTC価格は、直近7日間で、▽0.98%となっております。





参照元：Coinmarketcap

## 銘柄の価格高騰要因(考察)



とは

TSUDOIRリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。

### XRP：XRP



本銘柄は、直近3カ月で3度目の選出となります。

注目ポイント：複数のETF好材料により流動性と信頼度上昇に期待

米SECがWisdomTree(運用資産規模およそ1,000億ドル規模の企業です)のXRP ETF申請を受理、ブラジルでは、HashdexのXRPスポットETFが承認され、さらにナスダックがデジタル資産裏付け証券の上場ルール改正を提案するなど、複数国でのETF上場によりXRPへの流動性と信頼度が高まる見込みとなります。

ブラジルは南米最大級の金融市場とはいえ米国ほどの影響力はないものの、正式承認は投資家目線でプラス要因といえます。今後のシナリオとして、Ripple社の送金ソリューションやdApp連携が進展し、SEC臨時議長のMark Uyeda氏により米国規制緩和が推進されれば、エコシステム拡充と市場拡大に一層拍車がかかるでしょう。

## MANTRA : OM

本銘柄は、直近3カ月で2度目の選出となります。



注目ポイント：ドバイのVARAライセンスを取得により、アジア伝統金融との橋渡しに期待  
MANTRAが ドバイのVARAライセンスを取得したことで、規制を遵守しつつグローバル展開を加速できる体制が整いました。さらなるRWA（Real World Assets）トークン化に注力するLayer1チェーンとして、伝統金融との橋渡しが期待されます。また、Cointelegraphなどの業界有名企業が、新たなバリデーターの参加によりセキュリティと分散性が一層強化され、プロジェクトへの信頼度が向上。今後のシナリオとして、中東を足がかりに欧米・アジアへのサービス拡充が見込まれ、機関投資家の参入意欲を高める可能性があります。実需と信頼性を両立する点で、更なる進展が注目されるでしょう。

## Sonic : S

本銘柄は、直近3カ月で2度目の選出となります。

注目ポイント：Sonic経済圏のDeFi基盤が整い流動性増加への期待高まる

直近、Sonicネットワーク上にUSDTをはじめとするDeFiの基盤通貨が導入され、TVLは\$500Mに到達しました。さらに、2月17日に始動した初のオンラインハッカソン「Mobius Hackathon」ではゲームやDeFi、AIなど幅広い分野でのdApp開発を募集し、総額100万ドルの賞金で開発者コミュニティを活性化。今後のシナリオとして、こうした取り組みを通じて ネットワーク上に新たなキラーコンテンツが誕生すれば、一段と流動性を呼び込み、Sトークンへの需要やネットワーク全体の価値向上につながると期待されます。

# CMCサイト内 検索トレンド 狙い目：中堅銘柄

## 狙い目：中堅銘柄 発掘ガイド 2/21

このガイドでは、将来的に市場をリードする可能性を秘めた中堅銘柄を見つけるために、下記分析手法を採用しています。Coinmarketcap (CMC) における過去7日間の検索トレンドや訪問者数を分析し、注目を集めている中堅銘柄に関する情報を提供することです。

### 検索トレンド3銘柄

CMC Rank	プロジェクト	カテゴリ	時価総額	トークン価格	市場規模 ベンチマーク 比較	上昇率 7days
#60	 <b>XDC Network</b>	RWA	¥210,370,448,038	¥13.40	8.24倍 (LINK比)	▼4.24%
#85	 <b>Story</b>	Layer1	¥122,682,800,126	¥490.73	402.69倍 (ETH比)	▲13%
#87	 <b>Pyth Network</b>	Oracles	¥117,905,670,420	¥32.52	14.70倍 (LINK比)	▲4.45%

### 狙い目：中堅銘柄チャート

以下の画像は、CMCでの7日間の価格推移のチャートとなります。基軸通貨であるBTC価格は、直近7日間で、▼0.98%となっております。





参照元：Coinmarketcap

## 検索トレンド中堅銘柄 注目要因(考察)



とは TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。

### XDC Network : XDC

本銘柄は、直近3カ月で1度目の選出となります。

注目ポイント：インドで開催されたイベントにてRWA領域へのアプローチを強調

2025年2/15に開催されたXDC Connect 2.0で発表された内容には、RWAトークン化やAIとの連携を中心に、インド発のグローバル展開という独自性が注目されています。インド政府との協業により世界へと展開を図る姿勢は興味深いものの、現時点では具体的ユースケースが少なく抽象度が高い点に留意が必要です。今後、具体的事例の公開に期待しましょう。

## Story : IP

本銘柄は、直近3カ月で1度目の選出となります。

注目ポイント：Story Protocolがメインネットローンチにより注目度高まる

a16zや、Polychain Capitalなどから昨年出資を受けているインターネット上の知的財産（IP）の基盤として機能するようする本銘柄は、2025年2/19 Story Protocolがメインネットを公開し、主要取引所（CoinbaseやBybit等）へ上場したことで、注目を集めています。WEB3ペイメント企業であるTransakとの連携で法定通貨購入が容易になった点も強みです。短期的に市場の関心を集めるなか、今後のシナリオとしては、AI業界とのシナジーや企業やクリエイターの事例による信頼性向上と知的財産トークン市場の普及が鍵となりそうです。

## Pyth Network : PYTH



本銘柄は、直近3カ月で1度目の選出となります。

注目ポイント：GrayscaleがPYTHトラストをローンチしたことで流動性増加に期待高まる

2025年2/19 GrayscaleがPYTHトラストをローンチしたことで、Pyth Networkが注目を集めています。Pythは第一者提供のリアルタイム相場データを扱う高精度オラクルとして、DeFiや金融dAppsにおける主要インフラを担う存在です。さらにGrayscaleはBTCやETHのトラストをETFへ転換することを米SECから承認された実績があるため、今後はアルトコインのトラスト商品もETF形態へ発展する可能性が期待されています。こうした動きが機関投資家の参入を促し、市場全体の流動性拡大とPyth Networkの利用増加につながるシナリオが期待されます。

## 大穴：新規銘柄 発掘ガイド 2/21

このガイドでは、将来有望な「大穴銘柄」を発掘するため、CMC上で時価総額ランキング200位から800位に位置する銘柄を調査し、成長性の高いものに「Goodマーク」を付与する手法と、Tier1 VCが投資する銘柄の中から直近7日間で時価総額が急上昇したものを分析する手法を採用しています。大穴銘柄における「Goodマーク」は、TOPや中堅銘柄の「Goodマーク」とは性質が異なり、時価総額が低いことから成長の幅が期待できる反面、リスクも伴うため、リスクリターンのバランスを慎重に判断する必要があります。

CMC Rank	プロジェクト	カテゴリー	時価総額	トークン価格	市場規模 ベンチマーク 比較	直近7日間 のCMC推移
今週該当する銘柄はありませんでした。						



## 今週の重要トピック

### ミームコインブームとSolanaへの影響

2025年2月中旬、仮想通貨界ではミームコイン関連の話題が活発化しました。とりわけ、Binance元CEOのCZ氏がSNSで愛犬「ブロッコリー」を紹介したことをきっかけに、BNB Chain上ではブロッコリー犬を名乗るトークンが次々と発行され、短期間で大きな流動性が生まれました。

一方、アルゼンチン大統領が関与したとされる「LIBRA」は高騰後に大暴落し、同国で弾劾危機に至るほどの政治スキャンダルを引き起こしました。LIBRAはSolana上で発行されていたため、この事件を機にSolana経済圏のミームコイン取引が急速に冷え込み、ネイティブ通貨であるSOLも数日で約2割下落して投資家心理が変化したとみられます。

さらに、LIBRAをめぐるインサイダー取引疑惑が浮上し、Solanaの主要DEXアグリゲーター「Jupiter」が関与しているとの噂が流れましたが、Jupiter側はこれを公式に否定しています。

ただし、市場では依然として真偽不明の情報が錯綜しており、慎重な姿勢を取る投資家が増えているようです。

ミームコインは短期的に大きなリターンを狙える一方、インサイダー取引や政治的リスクに対する懸念が払拭できません。**今回のケースは、有名人や政治家の「お墨付き」があっても安全とは限らないことを改めて示した**と言えます。一部では過剰な投機が落ち着いた後の健全な成長を期待する声もありますが、今後はリスク管理や透明性確保の取り組みが、BinanceやSolanaといった大規模プラットフォーム全体の課題になりそうです。

### 引用元：

本レポートにおけるデータおよび分析は、以下の情報源を基にしています。

- CoinMarketCap : <https://coinmarketcap.com/>
- CoinCarp : <https://www.coincarp.com/>
- Messari : <https://messari.io/>

### 注意事項

本レポートは、投資助言を提供するものではありません。提供される情報は、一般的な解説に限定されており、個別の投資判断に直接適用するものではありません。投資に関する最終決定とその結果について、当方は一切の責任を負いません。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。商業利用に関するお問い合わせは下記よりご連絡ください。

発行元：TSUDO I

メールアドレス：info@sigmainc.co.jp

ウェブサイト： <https://tsudoi-platform.co.jp/>